



「学校生活支援ボランティア」として子どもたちにかかわってませんか?

「昼休みの見守りをする中で、子どもたちの顔や名前も覚えまし、地域と学校との距離が縮まったように思えます。これからも地域の子どもの成長を見守っていきたい」と河合秀二さん(上写真)。民生委員・児童委員の仲間とともに、週に2回、昼休みに南中学校の校舎を回って、生徒に声をかけています。

ほかに、市内の小中学校では、本の読み聞かせ(下写真)や、学習支援、登下校時の安全サポートなど500人以上の人に「学校生活支援ボランティア」としてご活躍いただいています。



ボランティアは随時募集しています。詳しくは、学校教育室(☎63-7882)へお問い合わせください。

地域

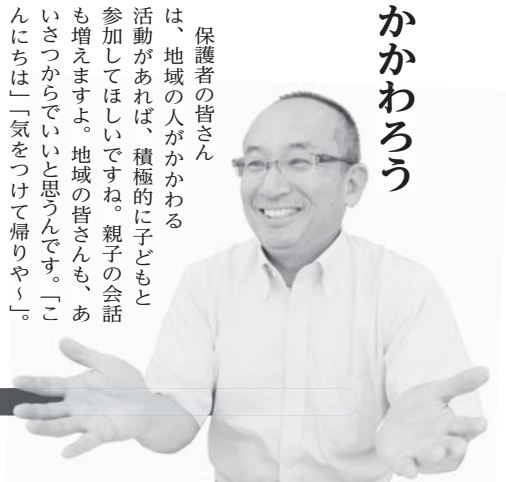
核家族が進み、一人の子どもにかかわる大人の数が減っています。そんな中、地域では何ができるのでしょうか——。地域全体で子どもにかかわろうという「MIK(マイク)運動」を進める中谷さんに伺いました。

○みんなで子どもとかかわろう

私たちが行っているMIK(マイク)運動とは、「子どもの様子をよく見て」「言うべきことは言って」「子どもの話はよく聞いて」という三つの行動「見て(M)」「言って(I)」「聞いて(K)」を、学校や家庭、地域などで広げようという取組みです。

私の小さいころは、近所の大人が、優しく褒めてくれたり、厳しく叱ってくれたりしました。子どもながらに、いつも大人に見守られていることを感じていましたね。しかし、最近では、近所の子どもの顔さえ分からないことも多いのが実情です。

そうした中、地域の大人と子どもが触れ合える場が必要だと思うんです。そこで、私たちは、親子で参加できる組みひも作りや、火おこしなどの催しを開催したり、桜まつりや、ひなち湖紅葉マラソン大会など、さまざまな催しに参加したりしています。



特に、いじめは、早いうちにその芽を摘んだ方がいい。いかに、子どもが大人を信頼して、すぐに相談できるか。親はもちろん、地域の人に相談することもあるでしょう。そのときのために、地域のみならず子どもたちにかかわりたいですね。

保護者の皆さんは、地域の人がかかわる活動があれば、積極的に子どもも参加してほしいですね。親子の会話も増えますよ。地域の皆さんも、あいさつからいいと思うんです。「こんにちは」「気をつけて帰りや〜」。こうした一言が重なって、大人と子どもの関係が築かれていくのではないのでしょうか。

MIK(マイク)運動推進委員会

中谷 幸雄 さん



地域の大人と子どもの距離を近づける「こころの思い発表会」

「今年も、真剣で率直な子どもたちの思いが伝わってきました。発表会を毎年楽しみにしている人もたくさんいて、地域の大人と子どもの距離を近づけるきっかけになっています」と竹原さん。いま、桔梗が丘地域では、世代間交流事業や登下校時の安全パトロールなど、大人と子どもがかかわる活動が活発に繰り返されています。

小中学生が、普段の生活の中の喜びや悲しみ、気付きなど、さまざまな「思い」を発表する桔梗が丘地域の「こころの思い発表会」。今年で16回目を数えます。「『最近の子どもの何を考えているのか分からない』と言う前に、まず大人が子どもたちのことを知ろうとする必要があるんじゃないかな」と、桔梗が丘自治連合協議会の竹原啓子さん。舞台には、地域内の5つの小中学校から各3人の計15人が立ちます。今年も、10月20日に、桔梗が丘公民館で開催され、将来の夢や、家族への感謝、運動会で学んだこと、そして、いじめのことなどについての発表に、温かい拍手が送られました。



「最近の子ども」が考えていることを知る機会

いじめを見逃さないで！子どもたちからのSOS

- 表情が暗くなり、言葉数が少なくなる。
- 使用のはっきりしないお金を欲しがらる。
- 衣服に汚れや破れが見られる。
- 学校や友達のことを話さなくなる。
- 手や顔などにすり傷や打撲のあとがある。
- 学校に行きたがらない。
- 食欲がなくなったり、体重が減少したりする。
- 急に怒りっぽくなるなど、情緒不安定だ。

対応方法

- ・子どもの立場に立つて真剣に話を聴いてください。
- ・自分は味方であること、守りたいという気持ちを伝えてください。
- ・悩み込まずに、学校や相談機関にご相談ください。

相談機関の一覧は6ページ(裏面)に記載しています



切り取って、財布や手帳などに保管しておいてください

